



No.595

茨城県歯科医師会
Ibaraki Dental Association

January
2019
平成31年

1





Contents

年頭のあいさつ	1
森永 和男	
堀 憲郎	
小船 秀文	
理事会報告	5
会務日誌	7
地域保険委員会だより	11
医療管理委員会だより	14
学校歯科委員会だより	20
同好会だより	23

表紙写真について

若宮八幡宮（常陸太田市）

佐竹氏十三代義人が応永年間（1394～1427）に鶴岡八幡宮を勧請し、太田城中に祀ったことに始まる。参道の両脇には6本のケヤキが立ち並び、鳥居をくぐってすぐ右側の1本は茨城県の天然記念物に指定されている。指定樹齢640年。

（社）珂北歯科医師会 成井 敏幸



年頭のごあいさつ

茨城県歯科医師会

会長 森 永 和 男

新年明けましておめでとうございます。

先生方におかれましては、今年も新たな気持ちで新春を迎え、素晴らしい新年のスタートがきれたことを心からお慶び申し上げます。

昨年と例年に変わらず、大きな自然災害が起こっております。中国地方においては、今までにない集中豪雨により多くの死者を出し、未だに復興がままならない状態が続いています。また、北海道でも大きな地震があり、甚大な被害や様々な困難が生じております。さらにアメリカ西部においても、いままで経験したこともない大火災が起こり、多数の死者を出す被害が発生しております。

これらの災害は、果たして単純な自然災害として考えて良いのでしょうか。無計画な森林伐採、地球温暖化対策を無視し、経済至上主義、保護主義に傾く社会情勢から、これらの災害は人間のエゴから引き起こされている人的災害なのではないかと考えざるを得ません

医療界も例外ではありません。今まで高度成長とともに発展し、結果的に「生きる医療」によって超高齢社会を迎えております。その反面、物欲中心の時代となり、便利さを追求するあまり、こちらの豊かさを失い、伝統的な大家族制度の崩壊をもたらしてしまいました。それに伴い、児童虐待、高齢者の孤独死が問題とされております。

国はこの対策として、在宅医療、地域包括ケアシステムの導入等の施策を講じておりますが、これらを達成するには、いかにソーシャルインクルージョンを考えるか、この考えなくして達成出

来ない事を認識しなければなりません。

今まさに「時に癒やし、しばしば救い、常に慰む」の考えで手をさしのべる医療を考えなければなりません。「生活を支える医療」「こころの医療」をいかにして達成出来るかが今後の重要な課題ではないでしょうか。

日本歯科医師会が平成元年に提唱した8020運動が、今年でちょうど30周年にあたります。この間、会員の先生方の努力によって、今や2人に1人の80歳の方が20本を有する時代となりました。これによって健康寿命の延伸がなされたことは事実であります。このように疾病中心の医療から「生きる力を育むための医療」への転換が必要ではないでしょうか。これが真の看取り医療だと考えます。

茨城県歯科医師会もこの観点から出来るだけ健康を維持し、楽しい老後の生活、すなわちQOLの高揚に寄与すべき口腔医療の充実を図って参ります。出来るだけ、「ピンピンコロリ」を目指して参りたいと考えております。

これが「生活を支える医療」を考える歯科医師会の存在意義ではないかと思えます。これらを達成するためには四師会の相互の連携を図り、現在のニーズに合った医療体制づくりに邁進していかなければなりません。同時に多職種との協力、特にケアマネジャーとの関係づくりにも努力して参ります。

最後に、昨年掲げさせて頂いた3つについては、概ね順調に推移しております。これに対して

は会員の先生方の絶大なるご支援があったればこそと、感謝申し上げます。

口腔センター土浦においては、昨年11月1日に無事開院する事が出来ました。身体障害者の二次医療機関として地区においても喜ばれ、認知されてきている所でございます。今年は更に全身麻酔も導入される計画となり、口腔センター水戸にも勝るとも劣らない医療機関として更なる充実を図って参ります。

また、四師会の連携においても、地域包括ケアシステム、病院連携における歯科の存在は高まっていると感じております。今、病院との医療連携

締結に向けて進めている所でございます。今年は、昨年掲げた施策に加えて、事務局のさらなる充実、また歯科医師のステータス、安定を図って参ります。しかしながら、これらを達成するためには、政治力抜きでは考えられません。この事から茨城県歯科医師連盟との共存達成が欠かせないと考え、今年はこの点についても全力投球をして参りたいと考えております。

今年も是非会員の先生方のご支援、ご協力を切にお願いしまして、年頭のあいさつとさせていただきます。



年頭あいさつ

日本歯科医師会
会長 堀 憲郎

新年おめでとうございます。全国の日本歯科医師会会員の皆様、そして関係者の皆様には、平成の時代から新しい未来に向かう歴史的な年をつつがなくお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

日本歯科医師会会長として三回目の「年頭所感」になります。最初の年頭所感では「会長就任当時の歯科界の混乱も安定し、長年に亘る歯科界からの発信により、歯科医療や口腔健康管理の重要性への国民的な理解が進み、歯科界にも活性化の兆しが見えている。更なる活性化に向けてスピード感をもって取り組みたい」と申し上げました。昨年の所感では、「会長就任時に掲げた日本歯科医師会の28課題の中で、例えば歯科におけ

る新しい技術を積極的に研究開発し、診療報酬改定時期以外に保険収載する仕組みの活用など、平成30年度の同時改定の中で重要な懸案事項について取り組んでいく」と述べさせていただきました。

このような流れを踏まえ、改めて昨年一年を振り返り、皆様のお力添えにより、それらの歯科界の長年の懸案であった課題も一つ一つ結果をだすことができた、充実した一年であったと総括しています。昨年の所感で言及した「歯科活性化会議の中で目指した新技術の開発と期中における保険収載の実現」の他、10年来の悲願でもあり、新病名検討ボードというチームを立ち上げて取り組んで来た「超高齢社会の疾病構造をカバーできる歯科の新病名の獲得」も口腔機能低下症、口腔機能

発達不全症の二つが保険収載されました。また50年に亘り歯科医療機関に不当な損害をもたらしてきた、歯科特有の不公平な薬価計算ルールも今改定の中で撤廃となりました。更に、数年来求め続けていた「厚労省医政局歯科保健課の歯科口腔保健推進室の省令室への昇格」も昨年7月31日付で実施され、歯科口腔保健法の目的を具体的に果たすための司令塔的な機能を発揮することが期待されます。

このようにこれまで実現が難しかった課題が、短期間に成果を出せた背景には、歯科医療の充実、口腔健康管理の推進の重要性に関して10年以上に亘る歯科界一丸となった粘り強い発信があったことと、それに加えて、目指してきたオールデンタルの取組みが出来つつあることの二つがあると振り返ります。特に歯科界全体の結束と目的意識の共有は、かつてなく強固になりつつあり、改めて日本歯科医師連盟、日本歯科医学会、歯科産業界、歯科医療行政の皆様のご理解とご支援に感謝申し上げる次第です。

昨年6月15日に閣議決定された骨太の方針2018も、歯科の部分に限って言えば、前年以上の充実した内容になり、未来投資会議の中間整理にも歯

科健診、歯科受診の推進の方向性が示されています。

このように歯科医療と口腔健康管理の重要性に対する国民的理解が深まり、健康寿命の延伸に向けての歯科医療の充実に期待が高まる今、それらの期待に応えて、地域における「超高齢社会での歯科医療の新しい役割と責任」を明確にした上で、それをしっかりと実行していくことが、歯科界の将来を左右する重要な課題と認識しています。

年号も変わる新しい年は、歯科界にとっても極めて重要な歴史的な局面になる年と位置づけ、日本歯科医師会は、2025年以降の人口減少問題への対応も含め、口腔機能管理の明確化と質の向上、歯科医師のキャリアパスの拡充、オーラルフレイル対策を含む予防歯科医療の評価、歯科技工士、歯科衛生士を含む新しい働き方の議論等々、歯科界の10年先、20年先を見据えた新しいビジョンを構築するとともに、国民の皆様の健康と生活を守る組織として、歯科医療現場の全ての歯科医療関係者が誇りをもって患者さんに尽くせる環境作りを目指していっそうの責任を果たして参ります。



年頭のあいさつ

茨城県歯科医師国民健康保険組合

理事長 小船 秀文

新年あけましておめでとうございます。平成もあと4か月、あたらしい年号となる新年いかがお過ごしでしょうか？日頃より組合の事業運営にはご理解とご協力を賜り、心からお礼申し上げます。

少子高齢化、社会保障と医療費の増大は、日本全体の問題でございますが、当組合にもすでに兆しがみえてきております。毎月の医療給付費の支払い（組合負担額＝7割）は、4000万から5000

万台前半で推移していたものが昨年3月には突然7000万を超える支払がありました。私が組合に参与して以来、初めての額となりました。

今、日本の医療費は毎年1兆円を超えるペースで増加をしています。なかでも、医療費の約6割を占める高齢者医療費の増加が著しく、現在の仕組みのままでは現役世代が高齢者医療を支えるという構造に限界が見えはじめているといってもいいでしょう。

出生数は第1次ベビーブーム期には270万人、それ以降は徐々に減少し続け2013年の出生数約103万人その後は緩やかではありますが減少傾向にありここ2年は100万人割れという状況です。団塊の世代が後期高齢化する2025年には、高齢者の人口は、約3,500万人になり、総人口の約30%に当たる数になります。二人の若人が一人の高齢者を背負う時代です。

我々国保組合は同業同種による相互扶助の相扶共済の精神で運営し社会保障の発展には、大きな役割を果たしてきました。しかし、増大する高齢者の医療費を若人のみで支えるには限界に達しており、このままではあたりまえと思っていた「国民皆保険制度」の崩壊にもつながりかねません。

今後、確実におとずれる社会保障に関する問題に対し、対応していくためには、我々国保組合にしかできない強みを自覚し知恵をだしあい、組合運営を行っていく必要があります。それには皆様の自覚が大事になります。

「セルフメディケーション」という言葉、皆さ

んも一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。セルフメディケーションとは、「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」と世界保健機関（WHO）は定義しています。具体的には、日頃から自分の健康状態と生活習慣をチェックし、天候不順や仕事の疲れなどによるちょっとした体調不良の際に、市販薬などを上手に使うことで自分自身で健康の維持や病気の予防・治療にあたることです。このセルフメディケーションの考え方は、日本人の高齢化や生活習慣病の増加、それらに伴う国民医療費の増大という背景もあり、だんだんと広まってきました。

セルフメディケーションに取り組むためには、自分の健康は自分で守ることを意識し、積極的に健康管理にかかわることが大切です。まずは、普段から適度な運動と栄養バランスのよい食事、十分な睡眠時間を確保し、身体に備わっている自然治癒力を高めておきましょう。そして自分の身体の状態を知っておくためには、健康診断を必ず受け、結果を把握しておきましょう。家庭でも、体重や体脂肪、血圧などを確認し、その推移を記録しておく、健康状態の把握に役立ち、健康管理へのモチベーションも上がります。

そのためには、我々、同業種それにかかわるご家族のための保険組合のメリットを生かした保険事業へ、そして日ごろの健康管理と人間ドック、特定健診へのご参加とご利用をお願いして新年のごあいさつとさせていただきます。

理事会報告

第8回理事会

日 時 平成30年11月15日（木）14時30分

場 所 茨城県歯科医師会館 会議室

報告者 増本章典

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 監査報告

4. 報 告

(1) 一般会務報告

(3) 【県医師会】2019茨城国体・障害者スポーツ大会におけるアンチ・ドーピングに対する研修会への共催依頼について

(4) 【県医師会】第6回茨城県エイズ・性感染症予防啓発大会（平成30年度HIV医療講習会）への後援依頼について

(5) 【県リハビリテーション専門職協会】「いばらき社会リハビリテーションフォーラム」への後援依頼について

(6) 【茨城新聞社】「スミセイウエルネスセミナー」への後援依頼について

(7) 【水戸市歯科医師会】市民公開講座への後援依頼について

(8) 疾病共済の支払いについて

県南地区 1名 28日

(9) H30年11月開業予定の歯科医院について

(10) 委員会報告

5. 協議事項

(1) 入会申込書の受理について

立原 輝明先生 珂北地区 1種

日歯大卒 承認

安達真由美先生 県南地区 1種

日大松戸卒 承認

高野 琢也先生 県西地区 2種

日大歯卒 承認

内田 文彦先生 準会員

東歯大卒 承認

(2) 茨城県保健福祉部との協議会について

承認

(3) 【水戸市歯科医師会】市民公開講座への事業補助について

承認

(4) 【県衛生士会】平成30年度運営補助について

承認

(5) 【日立歯科医師会】歯科保健の啓発活動への事業補助について
承認

(6) 平成31年新年会の開催について
承認

(7) 平成31年度会費免除申請について
承認

(8) 平成30年度終身会員の推薦について
承認

(9) 新入会員への施設基準研修の実施について
来年4月以降新入会員の多い時期に開催すること承認

(10) その他

○行事予定について

12月20日（木）

14時30分～16時 第3回業務会計監査

16時～18時 第9回理事会

18時30分～20時30分 役職員忘年会

（ホテルレイクビュー水戸）

1月17日（木）

14時～16時 第10回理事会

（水戸プラザホテル）

16時～18時 平成31年新年会

（水戸プラザホテル）



株式会社 岩瀬歯科商会



イワセオリジナルユニット
**SIGNO
NEXT**



これまでも、これからの未来、いっしょに
Iwase Dental Supply (INC.) member

昭和の幕開けと共に栃木県で創業した弊社は、今年で90年目を迎えます。
皆様方への感謝を忘れず、未来を見据えた歯科ディーラー像を創造して参ります。

■ 会社名称 株式会社 岩瀬歯科商会

■ 代表取締役 岩瀬 浩二

■ 設立 昭和24年（1949年）

■ 資本金 100,000,000円

■ 所在地 栃木県宇都宮市大宮2-11-15

製造販売・製作

株式会社 モリタ東京製作所

本社 埼玉県さいたま市中央区上落合2-1-24 TEL: 048-882-1315

伊東工場 埼玉県北足立郡伊東町小室7129 TEL: 046-723-2021

発売

株式会社 モリタ

大阪本社 大阪府吹田市豊水3-33-18 TEL: 06-6380-2525

東京本社 東京都台東区上野2-11-15 TEL: 03-3834-6161

事業所案内

支店名	住所	TEL
本社	台東区台東2-23-7	TEL: 03-3832-8241
宇都宮支店	宇都宮市平出工業団地37-6	TEL: 028-613-5858
水戸支店	水戸市白梅2-8-18	TEL: 029-225-6543
松戸支店	松戸市幸谷観音下159-1	TEL: 047-345-3131
千葉支店	千葉市中央区浜野町879-1	TEL: 043-305-1182
上野支店	台東区台東2-23-7	TEL: 03-3832-8241
古河支店	古河市下山町9-60	TEL: 0280-30-1582
福島支店	福島市鎌田字卸町4-1	TEL: 024-552-1161
世田谷支店	世田谷区玉川台2-11-17-101	TEL: 03-5491-7595
練馬営業所	練馬区豊玉北4-14-11	TEL: 03-5912-1180
横浜支店	横浜市栄区小菅ヶ谷1-28-9-101	TEL: 045-895-3808
5月GW明け以降	横浜市磯子区中原2-1-19	TEL: 045-770-4182
前橋支店	前橋市紅雲町1-22-2	TEL: 027-243-8241
5月GW明け以降	高崎市京目町176-2	TEL: 027-350-8241
厚木支店	厚木市酒井2087-14	TEL: 046-228-5550
大宮支店	さいたま市見沼区東大宮7-41-1	TEL: 048-688-1740
盛岡支店	盛岡市上堂1-6-5	TEL: 019-648-2777
東大和支店	東大和市立野3-640-1	TEL: 042-590-5770

会務日誌

- 11月15日 第8回理事会を開催。入会申込の受理、茨城県保健福祉部との協議会、【水戸市歯科医師会】市民公開講座への事業補助、【日歯】受動喫煙防止対策を強化・実現のための署名への協力をお願い、【日立歯科医師会】歯科保健の啓発活動への事業補助、平成31年新年会の開催、平成31年度会費免除申請、平成30年度終身会員の推薦、新入会員への施設基準研修の実施について協議を行った。
- 出席者 森永会長ほか18名
- 11月15日 第8回広報委員会を開催。会報12月号校正、会報1月号編集、追悼文について再確認、次年度予算について協議を行った。
- 出席者 柴岡広報部長ほか5名
- 11月15日 県保健福祉部との協議会を開催。本会からの提出協議事項として、口腔センター運営補助金の要望、睡眠時無呼吸症の助成、県（行政）に勤務する歯科専門職の確保、口腔保健支援センターの今後の運営と方向性、地域包括支援センター、子育て世代包括支援センター、母子保健連絡協議会などの各市町村の設置状況と歯科の参画状況、フッ化物洗口の推進、専門学校運営補助金の復活、歯科衛生士復職支援事業への支援について協議を行った。
- 出席者 （歯科医師会）森永会長ほか14名 （県）木庭県保健福祉部長ほか18名
- 11月17日 第39回全国歯科保健大会が宇都宮市文化会館にて開催される。大会テーマは「健康を味わう、生きるを味わう」～イチゴ一会 栃木で語ろう 健康長寿の秘訣～。特別講演「みんな地球に生きるひと」、シンポジウム「健康寿命の延伸～味わい豊かな人生のために～」が行われた。なお席上、日歯会長表彰を小林不律氏（古河市）が受けられた
- 出席者 森永会長ほか9名
- 11月18日 茨城県警察歯科協議会・講演会を開催。「災害時のメンタルヘルス」と題してPTSDに関する講演を筑波大学医療医学系 災害・地域精神医学 県立こころの医療センター地域・災害支援部長・室長の高橋晶先生が講演された。
- 受講者 99名
- 11月18日 警察歯科協議会を開催。平成29年度事業報告・決算報告、平成30年度事業計画案・予算案についての報告を行った。
- 出席者 森永警察歯科協議会委員長ほか47名
小山県警本部刑事部長ほか7名、神田茨城海上保安部長ほか3名
- 11月18日 県薬剤師学術大会がつくば国際会議場にて開催された。
- 出席者 森永会長
- 11月21日 日本スポーツ振興センター学校安全業務運営会議が水戸市福祉ボランティア会館にて開催され、報告・意見交換が行われた。

出席者 千葉理事

- 11月22日 第7回歯科助手講習会を開催。「共同動作」「医療安全」「緊急時の対応」「医療事故」について講義を行った。

受講者 39名

- 11月22日 保険医療機関に対する個別指導が厚生局茨城事務所にて実施された。

対象医療機関数 4

- 11月23日 第17回日本睡眠歯科学会総会・学術集会がつくば国際会議場にて2日間にわたり開催された。

出席者 森永会長ほか3名

- 11月27日 摂食嚥下研修会の第5回目を開催し、「摂食嚥下機能障害への対応ー各障害における摂食指導の実際ー」について研修を行った。

受講者 70名

- 11月28日 未就業歯科衛生士復職支援のための講習会を開催。シャープニング、キュレットタージ、超音波スケーラーの実習と質疑応答を行った後、希望者に対して就職相談を実施した。

受講者 3名

- 11月28日 第2回県国民健康保険運営協議会が県市町村会館にて開催され、県国民健康保険運営方針に係る取組み状況ほかについて協議が行われた。

出席者 森永会長

- 11月28日 いばらき高齢者プラン21推進委員会が県開発公社にて開催され、いばらき高齢者プラン21について協議が行われた。

出席者 森永会長

- 11月28日 県総合リハビリテーションケア学会理事会が県保健衛生会館にて開催された。

出席者 森永会長

- 11月29日 第23回日歯理事会在日歯会館にて開催された。

出席者 森永日歯代議員会副議長

- 11月29日 東京医科大学茨城医療センター主催の医療連携懇談会がホテルグランド東雲にて開催された。

出席者 渡辺専務

- 11月29日 茨城型地域包括ケア・フォーラムが県メディカルセンターにて開催され、本会森永会長がシンポジストとして「茨城型地域包括ケアシステム～歯科の立場から～」について講演した。

出席者 森永会長

- 11月30日 第2回四師会災害等連携協定ワーキンググループ会議が県医師会にて開催され、第5回JMAT茨城研修会について協議を行った。

出席者 村居常務ほか2名

- 12月 1日 災害歯科保健医療体制研修会が2日間にわたり日歯会館にて開催され、関係機関や関係団体を交えて、講義形式の研修及び実災害を想定した訓練を行った。

- 出席者 櫻川防災危機管理小委員長ほか1名
- 12月 1日 第17回認知症フォーラムinいばらきが古河市「スペースU 古河」で開催された。
出席者 小野寺理事
- 12月 2日 恒例の秋のテニス大会が水戸グリーンテニスクラブにて開催された。
参加者 14名
- 12月 5日 第8回社会保険正副委員長会議を開催。第9回委員会、指導、疑義、理事会、審査内容について協議を行った。
出席者 榊社会保険部長ほか2名
- 12月 5日 第9回社会保険委員会を開催。疑義について協議を行った。
出席者 榊社会保険部長ほか21名
- 12月 5日 第5回厚生委員会を水戸市内にて開催。福利厚生事業、茨城県歯科医学会企画、平成31年度委員会事業及び予算について協議を行った。
出席者 増本厚生部長ほか8名
- 12月 6日 第9回歯科助手講習会を開催。「社会保険の仕組み」、「歯科界の事情」、「産業廃棄物の処理」、「情報処理」、「個人情報保護」について講義を行った後、閉講式が行われた。
受講者 41名
- 12月 6日 第1回選挙管理委員会を開催。委員長に堀江正徳氏、副委員長に、関隆氏を選出し、今後の日程について協議を行った。
出席者 堀江選挙管理委員長ほか10名
- 12月 6日 第82回全国学校歯科保健研究大会が宜野湾市「沖縄コンベンションセンター」にて2日間にわたり開催された。メインテーマを「生き抜く力」をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指してに、初日は表彰式、ポスター発表、基調講演、シンポジウムが行われ、2日目には、5つの領域別研究協議会、領域別協議会報告が行われた。
出席者 森永会長ほか4名
- 12月 8日 第4回学術委員会を水戸市内で開催。第27回歯科医学会、来年度事業計画・予算（案）について協議を行った。
出席者 今湊学術部長ほか8名
- 12月 9日 認知症対応力向上研修会を開催。午前の部は「認知症における連携と制度について」県保健福祉部地域ケア推進課、「認知症の人の口を支える基礎知識」と題して東京都健康長寿医療センター歯科口腔外科部長の平野浩彦先生がそれぞれ講演され、午後の部では「事例で考える認知症の人の支援」について東京都健康長寿医療センター研究所自立支援と介護予防研究チーム認知症と精神保健研究員の枝広あや子先生の講演の後、15チームに分かれてグループワークを行った。
受講者 109名
- 12月 11日 日学歯選挙管理委員会が日歯会館にて開催された。
出席者 森永日学歯議長
- 12月 12日 関東地区歯科医師会事務局長会議が東京都歯科医師会にて開催され、各歯科医師会から提

出された事柄について情報交換と協議が行われた。

出席者 山田事務局長

- 12月12日 都道府県歯科医師会事務長事務連絡会が日歯会館にて開催される。平成29年度職員互助会決算、平成29年度職員福祉年金決算、都道府県歯よりの提出議題について協議が行われた。

出席者 山田事務局長

- 12月13日 8020運動30周年記念式典・シンポジウムが千代田区「イイノホール」にて開催された。

出席者 森永会長ほか2名

- 12月15日 第9回広報委員会をひたちなか市内にて開催。会報1月号の校正、会報2月号の編集について協議を行った。

出席者 柴岡広報部長ほか7名

- 12月18日 摂食嚥下研修会を開催。「摂食嚥下機能評価の方法」と題して研修を実施した後、事例検討の参加型ディスカッションを行い、全6回のコースを終了した。

受講者 69名

- 12月19日 2019茨城国体・障害者スポーツ大会に向けて四師会意見交換会が県医師会にて開催され、各会の現在の取り組みと今後についての協議、意見交換が行われた。

出席者 森永会長ほか2名

第27回茨城県民歯科保健大会報告

地域保健委員会 石崎 雄司

平成30年11月11日（日）、秋晴れのもと、茨城県歯科医師会館において「8020運動30周年～健康長寿は歯の健康から」をテーマに、「8020・6424運動の一環として、生涯を通じた歯と口腔の健康づくりの普及啓発を図るとともに、歯科保健の向上に功績のあった団体・個人や日頃から歯と口腔の健康づくりを実践され健康な歯を保っている方々を表彰することにより、歯科保健の一層の推進を図る」の趣旨のもと、第27回茨城県民歯科保健大会が開催されました。



オープニングでは、8020運動30周年のテーマに合わせ、8020運動の成果や歯と口の健康についての映像が流されました。式典は、黒澤副会長の言葉に始まり、県保健福祉部の関福祉担当部長、森永会長の挨拶に続き、来賓の方々を代表して茨城県薬剤師会根本会長より祝辞をいただきました。

続いて行われた表彰式では、以下の方々が表彰されました。

○「8020高齢者より歯のコンクール」

80歳で20本以上の歯を保とうという「8020」を達成され、なおかつ日頃から健康な生活習慣を実践なされている方を表彰するものです。県内各地から応募いただいた100名の中から選ばれた方々です。

最優秀 工藤 勝男

優 秀 助川 芳江

関口 和子

近藤 次郎

小林 幸子

菅野 長行

シニア賞 三好 義春

歯科医師会特別賞 小泉 外松



○「親とよい歯のコンクール」

家族ぐるみの歯科保健の向上と、幼児及び母親父親の歯と口腔の健康の保持増進を図る目的として、3～6歳のお子さんとその母親と父親でとも

により歯をおもちの方々に対して表彰を行うものです。

最優秀 佐藤いづみ、桐花
優 勝 阿部 美可、航
大久保 遥、龍夢
大森 卓、陽翔
田中 麻由、黎音
松本ひろみ、陽愛
海老澤陽子、拓人



○「歯と口の健康に関するポスターコンクール」

歯と口の健康の大切さを普及するために県内の小中学校から、ポスターを募集し、優秀作品を表彰するものです。

・小学校の部

知事賞 中川 栞
教育長賞 稲見 真奈
歯科医師会長賞 日田 大和
優秀賞 山崎 二葉
吉田 麻結
飯村ありさ
秋本 祐歩
成田 結愛
佳 作 山崎 快
國井梨々華
宮 悠一郎
杉山 聡平
大聖寺 煌

安藤亜佑人
仲野谷真央
宮崎 花梨
南城 心詞

・中学生の部

知事賞 岩瀬日菜子
教育長賞 中 万由子
歯科医師会長賞 飯田 有美
優秀賞 金澤 亜美
篠塚 泉希
伊藤亜斗夢
佳 作 川又 琉生
大葉 真生
小林世莉香
佐藤 麗華
小松崎 護



○「茨城県歯科保健賞」

歯科保健の向上に尽くした功績に対し、賞を贈るものです。

茨城県歯科保健賞 社会福祉法人
亜紀会あさひ保育園
奨励賞 茨城新聞社
針替喜代子
(歯科保健ボランティア)
岩井清子
(歯科保健ボランティア)

茨城県歯科医師会長からの感謝状

桜川市健康推進課



受賞者全員への表彰状授与の後に、よい歯のコンクールを代表して親と子の最優秀の佐藤様、ポスターコンクールを代表して中学校の部知事賞の岩瀬様より謝辞が述べられました。

最後に、征矢副会長より閉会の辞が述べられ、第27回茨城県歯科保健大会は閉会いたしました。

終了後、ロビーでは「よい歯のコンクール受賞者からのメッセージ」「ポスターコンクール作品」が展示され、自身の写真や作品の前で笑顔で写真撮影する様子が見受けられました。

本年も円滑な運営に協力していただいた関係者の皆様、お疲れ様でした。

株式会社岡山情報処理センター

OEC

TDM-maxⅢ+は、クリニック様向け多機能歯科システムの最新バージョンです。
初めての方でも、手書きカルテ感覚で入力できます。簡単入力をモットーに操作性を追求して参ります。

各社
レントゲン
連携！

多機能歯科システム
TDM maxⅢ+

保険証
リーダー
接続！

訪問診療
入力！

介護請求
対応！

音声入力
歯周検査
連携！

インター
ネット予約
連携！

他社
データ移行
連携(※)

※データ移行は事前に確認・報告します

販売店： 有限会社 ムラマツ 〒319-1112 茨城県那珂郡東海村村松1292-3 TEL 029-306-0170(代)

開発元(資料請求、デモ)： 株式会社岡山情報処理センター 医療・福祉ソリューション第二G 東日本歯科営業T TEL 03-3457-6666

医療+管理委員会 だより

平成30年度 日歯認定歯科助手講習会閉講式

医療管理委員会 大貫 範生

今年度も平成30年度医療管理委員会の事業として平成30年5月24日の開講式から同年12月6日までの7か月間、全9回に亘り茨歯会館3階講堂にて日歯認定歯科助手講習会が開催されました。12月6日には最終講義終了後、厳粛な雰囲気の中、受講生42名が参加して閉講式が執り行われました。

閉講式は、初見謙介委員長の司会進行のもと、まず茨城県歯科医師会副会長の黒澤俊夫先生より祝辞と労いの言葉をいただきました。続いて、医療管理部長の大字崇弘先生から医院の仕事は歯科助手が舵取りをして行くことで患者さんのための診療が滞りなく行うことができるという励ましの言葉をいただきました。

受講生達は、約7か月間、歯科助手の心得から始まり、見だしなみ・会話の基礎・電話の対応・患者との対応・人間関係などの一般教養、歯科臨床概論、保守管理、診療機器の保守・点検、医薬品・材料の取扱いなどの講義を経て、薬品及び材料の

取扱い、口腔衛生指導、歯科材料の取り扱い、歯科技工との連携、救急処置、診療時のアシスタント動作などについての実習、さらには医療安全、社会保険の概要、最新の歯科事情についての講義と内容のある9回の講義を終え、乙種第一歯科助手と認定されました。

最後に書いていただいた受講者の感想文には、診療においては心構えも当然ながら、正しい沢山の知識と技術が必要であり、そのためには日々勉強する必要があるとありました。この講習会を機に歯科助手として、医療従事者として、仕事に誇りを持ち、少しでも医院の診療の質の向上に尽力出来ればと、さらにはこの講習会を受講したことが価値のあるものであったと感じていただけたなら幸いです。

またこの講習会は、日歯を主管とする事業ですが、実際の企画・運営は県歯に任されており、医療管理委員を始め、外部講師、技工士科・衛生士科の諸先生方、救急普及協会の方々の協力の元に



開催できました。また講習会を運営するにあたり、様々な事務作業、準備をしてくださった茨歯会事務局の方々、診療があるにも拘わらず、スタッフを送り出してくださった各医院の先生方に感謝を申し上げてご報告とさせていただきます。また、来年度も開催予定ですので、助手の方が勤務されている医院の先生方は是非ご活用ください。

以上、報告とさせていただきます。



歯科助手講習会に参加して

9 番 木間 弘美

私は今まで、自分の口腔内に特に興味はありませんでした。毎日歯磨きもしている、痛いところもない、という事で定期検診にも行きませんでした。その意識が変わったのは、五年前に茨城県に引っ越してきてからです。

たまに親知らずの歯茎が腫れて、姉に勧められた歯科に行った時でした。越してきて間もなかった私は、他県で初めての歯科、さらに久しぶりですごくすごく緊張して、正直行きたくありませんでした。そんな不安な気持ちのまま来院すると、受付の方がとても気持ちの良い笑顔と声で対応してくれました。この時、病院に来ているような感覚ではなくなり、自ら笑顔で話してしまうようなそんな居心地の良い空間に私はとても感動しました。

呼ばれて診療室に入ると、他の皆さんも笑顔で挨拶をしてくれて、最後まで気持ち良く帰ることができました。それから歯科に対する不安や恐怖が少なくなり、定期検診にも行くようになりました。

ここの歯科に出会えた事で、私と同じような人を増やしたい、不安や恐怖で歯科に抵抗があった人も、雰囲気や対応一つでまた来たいと思える歯科、とても素敵だと思いました。

そこで、去年の七月に歯科の世界に飛び込んだ私ですが、知識や技術は全くなく、どのように学べばよいかも分かりませんでした。職場の方に聞き、このような講習会があるとわれ、すぐに参

加したいと思い、今回無事に参加できたことを嬉しく思います。

講習会では、歯科助手の心得から、一般教養、治療の流れ、医薬品や材料の扱い、消毒や滅菌、救急救命、専門用語や読めない漢字がでてきたりと、どれも難しいことばかりでしたが、基礎的なことを学べてとても勉強になりました。

実習に入ると、口腔内の写真撮影や印象、石膏、練和、混和などと、歯科助手は技術も必要な仕事なのだと改めて思いました。なので、日々練習や勉強を怠ってはいけなくと強く感じました。

そして、救急処置の実習では、AEDの扱いや胸骨圧迫のやり方などを教わりましたが、この時に私は、医療という現場に携わっているという事を常に意識していなければいけないと、責任感のようなものを感じました。

なので、歯科の雰囲気作りや笑顔での対応、接遇の方ばかり目が行きがちでしたが、しっかり知識や技術を身につけて、アシスタントができるようになり、さらに接遇もできれば、結果、患者さんによりよい医療を提供でき、笑顔も届けられると思えるようになりました。

また、この講習会に参加して、他院の助手さんとも交流でき、良い刺激になりました。ここで学んだ事は必ず医院に持ち帰り、歯科で働く一員として、貢献していきたいです。歯科助手を目指したきっかけ、初心も忘れずに、これからも日々、頑張っていきます。

歯科助手講習会を経て

39番 小竹 咲絵

歯科技工士の学校を卒業してから13年間技工士をしていました。歯の治療や技工物は、大まかに把握していたつもりでした。ですが、一年前から院内に勤め始め、歯科助手を行うようになり、足りない知識が多くあるのだと実感しています。

まず、道具や材料の名前は仕事場で頻度が多く飛び交うので覚えやすいのですが、取り扱い方が曖昧で指示があるままに行っていたところがありました。この講習で、そういった正しい知識を得られたので、使用する意味やタイミングが分かる事で、医師の助手業務がスムーズになったように思います。

ブラッシング指導も、意外と分かっていないところでした。自分で染め出して、ブラッシング法を行いながら磨けているか、赤色が残りやすい部分がどこなのかを明確にできました。患者さんの歯列の状態は、個々でさまざまですが、ブラッシング法や歯ブラシ以外の磨き方を患者さんに提案が出来るようになったのは、自分で実際に体験したからだと思います。

そして、長い間技工室で働いていたので、コミュニケーション能力が足りていない事に気づきました。一回目の講習で自己紹介を行いました。初めて会う方に話しかけたり自分の事を伝えるのは苦手で、大変戸惑いました。それは、患者さんも同じです。当院では小児も多く、うまく伝えられない子もいるので、不安を少しずつ軽減する事で情報を集め、保護者との信頼関係を図ることで、問題と改善点が見えてくる事があると思いました。患者さんへの積極的な話しかけが、治療を進めるにあたって、協力が得やすくなる歯科助手としての仕事でもあると思いました。

講習会を経て、歯科助手に求められている事が分かりました。自分の能力で出来る事は限られています。患者さん・歯科医師・歯科衛生士へのサポートをする事で、治療を円滑に回す立場でもあると思ったので、講習会は終了しますが、勉強する事は、まだまだ多くあると実感し、継続していきたいと思いました。

平成30年度 第2回歯科衛生士復職支援講習会

医療管理委員会 鈴木 慶洋

平成30年11月28日（木）、茨城県歯科医師会館において本年度第2回歯科衛生士復職支援講習会が開催されました。

現在、歯科における環境は外来環や支援診・か強診など歯科衛生士がいないと算定できない項目も増えてきており、歯科衛生士の重要性はさらに増してきています。

今回の講習会は水戸地区で行われましたが、各地区でも同講習会を年1回開催しており、各地区で休職中の衛生士の掘り起こしにも尽力しています。

さて今回の講習会には水戸・那珂・大子から3名の受講生が参加しました。

はじめに森永会長から、「歯科衛生士の活躍の場は介護の現場や福祉施設等に広がっており衛生士の数が不足してきているため彼女たちの復職が非常に大切である」という話がありました。

今回の講師は衛生士科より菱沼主任と持田先生が行い、講義内容はキュレッタージ・キュレットのシャープニング・超音波スケーラーの相互実習です。

相互実習は患者役・アシスタント役・術者に分かれ、3人一組となりそれぞれ交代で行われました。

担当の受講生はそれぞれ真剣に取り組んでおり技術的にもまったく問題ありません。



技術的にはそれほど問題なくても、長いブランクとそれに伴う新しい技術や言葉のために復職を諦める、あるいは躊躇する衛生士がいるのだろうと感じます。

最後に受講生と率直な意見を交換する講話と就職相談の時間が設けられ、今回は就職相談をする受講生は2名いました。

講話の中で受講生が一番気にかけていることが職場での人間関係のようです。具体的には医院の見学や面接時はとても良い雰囲気だったのに、就職してみるとスタッフや先生が最初の印象と違っていたなどです。

また他の意見としては、TBIを含む口腔ケアや訪問診療に興味を持っているというものです。現在のブラッシング指導と昔のものは違うのか、あるいは歯磨剤や歯ブラシはどうなのか、訪問診療はどのように行われているのか等、具体的に知りたいようです。

このように休職している衛生士たちはブランクやそれに伴う最近の歯科の状況を不安視しつつも、自分たちが興味を持つ口腔ケアや訪問診療ができる歯科医院で活躍し働きたいと考えているようです。

以前であれば、受講生の復職の条件は給与や勤務時間等のハード面に限られていましたが、最近では人間関係や仕事の内容などソフト面にもその基準があるようです。

そのため復職を検討している衛生士の募集をする際は、医院のハード面とソフト面の両方を整えておく必要があると考えます。

また、受講生はこちらから配布しているポスターを院内でご覧になり講習会に参加してきているため、引き続きポスターの掲示をお願いします。

今年度は来年の3月28日(木)に茨城県歯科医師会館で、第3回復職支援講習会が開かれる予定で、各地区での開催予定は下記のとおりとなっております。

牛久 平成31年1月31日(木)

境 平成31年2月21日(木)

結城 平成31年3月7日(木)

つくば 平成31年3月14日(木)

また、県歯ホームページの無料求人サイトの活用をお願いします。

茨歯会無料職業紹介所

<http://work.ibasikai.or.jp/>



歯科衛生士復職支援講習会アンケート

平成30年11月28日(受講者3名)

Q1 この講習会の事を何で知りましたか？

A1. 歯科医院の広告 3

A2. ホームページ

A3. 友人・知人の紹介

A4. 真珠会お知らせ

A5. 衛生士会お知らせ 1

A6. 茨城新聞

A7. NHKデータ放送

A8. その他

Q2 講義の内容はどうでしたか？

A1. 丁度よい 3

A2. 物足りない

受講したい講義内容(TBI、歯ブラシについて)

Q3 実習内容はどうでしたか？

A1. 丁度よい 3

A2. 物足りない

受講したい実習内容(口腔ケアの仕方、歯磨剤の選び方)

Q4 復職にあたって気になることは？

(複数回答可)

A1. 給与・待遇

A2. 勤務時間 2

A3. 職場の人間関係 2

A4. その他 1

(ブランクがあるので、助手の仕事から出来るかどうか)

Q5 御友達に復職を考えている衛生士さんはいますか？

A1. いる

A2. いない 3

Q6 復職の時期は

A1. 3か月以内 1

A2. 1年以内

A3. 1年以上

A4. 条件が合えばいつでも 2

Q7 ご意見・ご希望があれば何でもお書き下さい

今日は大変勉強になりました。ありがとうございました。

キュレットは現場で使用していましたが、基本を忘れていたので思い出すことができて良かったです。デンタルフィルムの当て方を再確認したいです。



第82回 全国学校歯科保健研究大会報告

学校歯科委員会 高木 幸江

平成30年12月6日・7日、沖縄コンベンションセンターにて「生き抜く力」を育む歯・口の健康づくりの展開を目指して～学校歯科保健活動のもつ教育力を考える～と題して、平成30年度の全国学校歯科保健研究会が開催されました。茨城県歯科医師会学校歯科委員会担当理事の千葉順一先生、委員長の椎名和郎先生、委員の渡辺大郎先生と参加してまいりましたので、ご報告致します。

お忙しい中、茨城県歯科医師会会長であられる森永和男先生のご出席や、水戸市歯科医師会学校歯科委員会の大森勇市郎先生、橋本和典先生のご参加もありました。森永会長と未来を担う子供達の健康について意見交換ができたことは、学校歯科委員の励みとなりました。

また、茨城県学校歯科委員会として、「学校歯科保健活動評価の試み（よい歯の学校表彰 歯科医師会長賞 表彰基準の改訂）」と題して、ポスター発表を行いました。

米須敦子沖縄県歯科医師会副会長の開会宣言の後、日本学校歯科医会会長 川本強先生などのご挨拶があり、2日間の大会が始まりました。



学校保健表彰

茨城県からは、笠間市立大原小学校、鹿嶋市立鹿島小学校、北茨城市立明德小学校が奨励賞を受けました。

基調講演

「児童生徒が身につける長寿の秘訣」と題して、首都大学東京 名誉教授 星旦二氏のご講演されました。

①子供たちの望ましい生活習慣の確立

高校生が充実した学校生活を送るための要因は、生徒自身が自分が好きで、保護者と将来の話をする事と関連している。家族機能により高校生本人の自己肯定感を維持しないし向上させ、保護者と共に将来の話が出来ることが、悩み体験を少なくさせるとともに充実した学校生活を送っていく上で大切である。

②健康長寿のための口腔ケア

65歳以上16,462名を6年間追跡し、かかりつけ歯科医がいる人ほど、その6年後の累積生存率が男女ともに統計学的に維持される傾向がある。

壇上から森永会長を見つけられた星先生は「茨城は病院が少ない。特養が多い→寝たきりが多い。」ねんねんころりんの沖縄県と同じでピンピンコロリンを目指すよう長期入院はしないことが大切と話されていました。また、450人の追跡調査で、4年前の“口腔ケ

ア”が“口腔衛生”を維持させ、4年後の“食生活”を経由して規定されるという因果関係が示されたそうです。

③沖縄県の健康長寿のために

沖縄県平均寿命が相対的に低下している背景は、住宅のカビや室内喫煙による閉塞性肺疾患死亡率の高さではないかと推定される。将来ある児童生徒の健康寿命のためには、口腔ケアを大切にして、やや小太りでコレステロールが高い方が良く、生活習慣や屋内外環境を好ましいものにする公的責任による支援環境の整備、つまりゼロ次予防が大切とのことでした。

シンポジウム

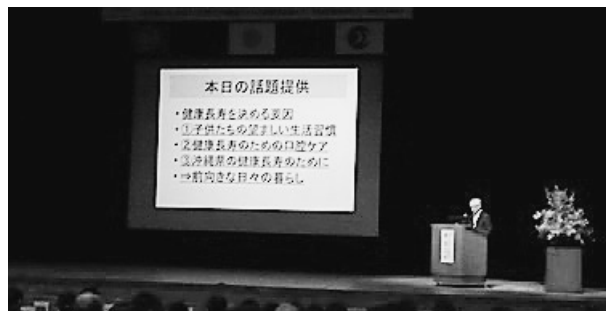
「学校歯科保健活動のもつ教育力を考える」をテーマとして、明海大学 学長 安井利一先生を座長として、以下の3名の先生方の発表がありました。

1. 主体的で対話的な学びを通して、健口食育の学びが深まる指導法

長崎県佐世保市立広田小学校 教諭

福田泰三先生

子供のころ、「よく噛みなさい」と言われ育ったが、大人になり、子供達に同じことを言っているのだが、なぜ噛まないといけないのか、よく噛むことでどんな効果があるのかは理解していただろうか。「噛むことはよいこと」。それで終わっていた。このあたりまえの理由を教師が教えるのではなく、児童自らが探求していくことが、「主体的で対話的な深い学びへ」とつながっていくのである。「お口ポカン」の状態の子供達が多いことから、朝の会であいうべ体操を取り入れ、姿勢の指導も行った。健口食育と題して、みそ汁作りや、朝食作り等の調理実習を通じて、自



作のカムカム弁当作り、九州大学でのプレゼンテーションを行い、「自己有用感」を高めることができた。

2. 学校歯科保健活動、地域連携が及ぼす教育力について

KAZUデンタルクリニック 院長

平良和枝先生

特別支援学校においての地域力の連携・協力体制の取り組みについてです。

麻酔下での歯科治療後にフォローアップがなく、2年もしくは3年に一度行われる事業において同児童がくり返し全身麻酔下での歯科治療を余儀なくされていたことから、保健所を中心に協議の場を持ち、障がい者等歯科診療紹介システム、全身麻酔下歯科治療後のフォロー体制、地域完結型体制を構築させて、全身麻酔下歯科治療事業は終結した。生活の質を支える歯科医療の地域連携の仕組みが出来上がり、おのずと支援学校の子供たちが安心できる環境づくりが整った。特別支援学校の学校歯科保健活動は、歯科検診、学部別歯みがき指導、寄宿舎歯みがき指導、歯ッピーデー、かみかみデーなど栄養士、理学療法士、言語療法士との連携など、多様な計画が立案されている。「むし歯ゼロ、卒業時には治癒率100%」を目指して、邁進中である。

3. 健康・長寿おきなわの復活を目指した学校歯科保健活動からのアプローチ

沖縄県教育庁保健体育課 健康体育班 班長
上地勇人先生

現在、都道府県別平均寿命の全国順位が男性36位、女性7位となり長寿県としての地位が危機的状況にある。沖縄県の歯科保健をみても、12歳の永久歯一人当たり平均むし歯数は最下位である。8020達成者も全国平均を大きく下回っている。健康長寿県の復活を目指して、学校歯科保健活動の持つ教育力に期待している。主な取り組みとしては、フッ化物洗口、ブラッシング指導、歯・口の健康に関するポスター、健康啓発標語コンクールの実施（上位作品を牛乳パックに掲載）、医師会等との連携、副読本の作成と活用である。

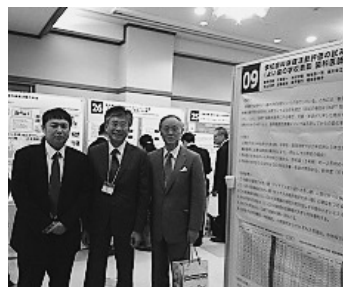
領域別研究協議会

幼稚園・認定こども園・保育所部会、小学校部会、中学校部会、高等学校部会、特別支援教育部会に分かれて、各々研究発表が行われました。

高等学校部会をのぞく部会ではフッ化物洗口の実践発表が目立ちました。

高等学校部会では、研究発表の前に「より充実したユニバーサル・ヘルス・カバレッジに向けて：高校生までの医療費の無償化を考える」と題して、東北大学大学院歯学研究科 国際歯科保健学分野 准教授 相田潤先生のご講演がありました。歯科医療を受けることは、人の基本的な権利の一つである。日本の国民皆保険制度における歯科保健医療の提供内容は多岐にわたり、国民の歯科医療を受ける権利は国際的に高い水準で守られている。しかし、予防や専門的な治療に関する提供が比較的弱いという弱点も存在する。また、日本の国民皆保険制度における歯科医療のカバー範囲は多岐にわたり広く、国民の自己負担は国際的に極めて低い水準に抑えられている。しかし、一方で自己負担金が存在するため、経済的問題から受診抑制が生じている可能性がある。実際、日本

における歯科受診の受診抑制を示すデータが存在する。震災前は医科受診のほうが歯科受診よりも多いが、震災後の自己負担金がゼロになった免除期間においては、歯科受診が急激に増加して医科受診を上回っていることが示されている。このことは普段は経済的負担を懸念して歯科医療を受けることを我慢していた人々が、免除期間に受診したことを示唆している。また、定期健診など予防的な歯科受診は所得が高い人の方が受診が多く、所得が低い人で受診が少ないという歯科受診の健康格差が存在している。経済的に貧しい子供たちが増え、経済的な貧しさは歯科疾患の増加と歯科受診の抑制を増やす。病気に苦しみ、しかし、受診が難しい子供が増えているのである。学校健診の後に受診をしない子供たちが存在するのは、このような社会的背景が原因として存在している。子供の医療費負担を免除する市町村が存在するが、その上限年齢などは地域により異なる。「住んでいる地域によって、医療を受ける権利を享受できる可能性が異なる」のである。日本の素晴らしい制度も、さらなる進化をする余地が存在する。歯科疾患に罹患する前の一次予防の拡充も重要であり、どのような家庭環境の子供でも学校や幼稚園・保育園に行くだけで恩恵が受けられる集団フッ化物洗口などの健康格差を減らす対策の普及も同時に求められている。



同好会 だより

第32回 茨城県歯科医師会テニス大会に参加して

(社)珂北歯科医師会 柴岡 永子

平成30年12月2日（日）恒例の茨城デンタルテニスクラブ（会長 比企省吾先生）の秋のテニス大会が水戸市住吉町の「水戸グリーンテニスクラブ」で開催されました。

当日は花曇り、無風で師走だというのに暑くもなく寒くもない快適なテニス日和のなか記念すべき平成最後のテニス大会となりました。



参加者は16名で試合は例年どおり、総当たりリーグ戦と決勝戦のトーナメント方式となっています。

組み合わせは基本的にクジ引きですが、ご家族や私の様な正真正銘の初心者にはご配慮下さり、参加しやすくして頂きました。

さらに試合の前には「試合直前！今からでも間に合うポイントレッスン」真柄のテニスクールが開催され、比企能隆さん（比企会長の素敵な御子息様、元早稲田大学テニス同好会幹事長）にフォア、バック、ボレー、サーブなどの基本プレー

をととても優しく分かり易く熱心にご指導頂きました。試合でもペアを組んで頂き（初心者の特権!?）、ミスの度に折れそうな気持ちを何度も立て直してもらい、その都度の的確なアドバイスと爽やかな笑顔に励まされながら、ポイントはさておき、一球一球ワクワクしながら本当に楽しくテニスができました。心から感謝申し上げます。

試合結果について、優勝は比企先生と村木先生ペア、準優勝は鈴木先生と谷川先生ペアでした。また敗者復活戦（コンソレ）の優勝は宮内あけみさんと宮内あさぎさんペア（宮内先生の奥様とお嬢様）でした。おめでとうございます！

また優勝者、準優勝者への豪華賞品の他にも、嬉しい参加賞もあり、できるだけ参加者全体に賞品がわたるようにとの主催者の温かい配意が感じられ、とても和気藹々で楽しい大会に感じました。



優勝 比企先生、村木先生ペア



準優勝 鈴木先生、谷川先生ペアと会長



コンソレ優勝

宮内明美さん、あさぎさんペアと比企会長

さて例年では優勝者が大会報告（優勝スピーチとして）を優勝者の特権としてお書きになる慣例のようですが、今回は私が初参加ということもあり、沢山の会員の皆様方のご参加をいただくための広報の一環としての執筆という大変に荷の重い役を仰せつかり、本当に僭越とは存じましたが、少しでも参加者が増え大会が盛会に開催できますよう祈りながら書かせていただきました。

最近、子離れに何気なく始めたテニスでしたが、地元で大変お世話になっております鈴木宏明先生にお誘いいただき、私の様な者が厚かましいのでは？と思いながらも、初めて参加させて頂きました。テニスクラブの先生方は、初めてお会いさせて頂く大先輩、レベルの差も歴然ですが、温かく

迎え入れて下さり、和気藹々とした雰囲気の中で、益々テニスが面白くなり、色々なお話を伺うことができて本当に楽しい一日でした。参加して良かったなあと思いました。心から厚く感謝申し上げます。

近年、第3次テニスブームと言われていますが、これは当然のことながらマスコミを賑わす錦織選手や全世界のアイドル大坂なおみ選手の活躍があるようです。

でも当茨城デンタルテニスクラブは32年の歴史を誇っていますので、この第32回大会報告書が掲載される平成31年には今上天皇の退位があり、この大会が平成最後の大会となり平成の御代よりも1年も長く続いた素晴らしい記録を持つことになりました。

また当テニスクラブの創設には水戸市の加藤允先生の御尽力があったと聞いております。私事ですが、加藤先生には幼い頃から家族共々大変お世話になっており、このご縁を大切にさせて頂きたいと強く感じました。

当クラブも各地区に支部が結成され支部毎の活動もされているほど沢山の会員がいます。

しかし当テニス大会は参加者数にまだまだ余裕があるそうです。全国大会も有りますし、沢山の皆さんの参加があれば婚活とまでは言わないまでも若い先生方、ご家族、スタッフの方々のご参加が増えると思いますし、32年間も続けているクラブの先生方が心から参加を希望されています。

本当に遊び感覚が大切な時代です。会員の先生方には若い頃にテニスに夢中になった方も沢山いると思います。また子育てなどでテニス大会に付き添いで行かれた方々もいると思います。

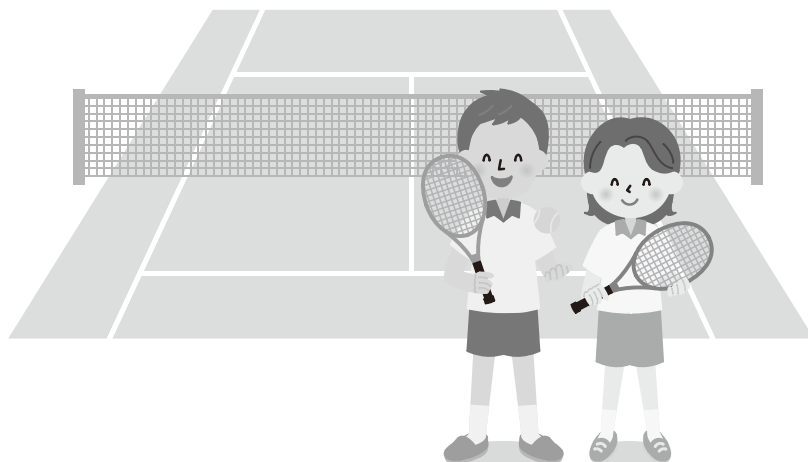
さらに運動不足でメタボ気味で何かスポーツを始めたいとお思いの方々も多いと思います。

是非この大会にご参加ください。

初めてでも大丈夫です。各地区の担当の先生方にご連絡頂ければ、指導や活動方法などを教えて

いただけます。このテニス大会の参加資格は開催のお知らせでご存じと思いますが会員、会員のご家族、あるいは従業員の方々に、初心者、女性の先生、ご家族の皆様、スタッフの方々でも安心し

てとても楽しく参加できる大会です。またテニスを通じて仲間の輪が広がり、さらに参加して心身共に健康になれるのではと感じたことを申し上げご報告とさせていただきます。



みんなの写真館

Photo
Gallery



馬場八幡宮

天喜4年（1056）から始まる。室町時代の建築様式。



若宮八幡宮のケヤキ



太田落雁

水戸八景、阿武隈の連山を背景に。

(社) 珂北歯科医師会 成井 敏幸

みんなの写真館写真募集！

このページには皆さんからの写真を掲載できます。表紙写真に関連した写真、ご自宅の古いアルバムに埋もれた写真などをお送り下さい。

1種会員 1,157名
2種会員 58名
終身会員 120名
準会員 5名
合計 1,340名

会 員 数

平成30年11月30日現在

地 区	会員数(前月比)	
日 立	117	
珂 北	144	
水 戸	154	
東西茨城	73	+1
鹿 行	105	
土浦石岡	176	+1
つくば	128	+2
県 南	180	±0
県 西	154	+1
西 南	104	±0
準 会 員	5	
計	1,340	+5



Ibaraki Dental Association

公益社団法人 茨城県歯科医師会

茨 歯 会 報

発行日 平成 31 年 1 月

発 行 茨城県歯科医師会 水戸市見和 2 丁目 292 番地

電 話 029(252)2561~2 FAX 029(253)1075

ホームページ <http://www.ibasikai.or.jp/>

E-mailアドレス id-05-koho@ibasikai.or.jp

発行人 渡辺 進

編集人 柴岡 永子



この会報には、環境に配慮して植物油インキを使用しております。